

SSH 事業学校独自科目『課題探究基礎』『課題探究応用』に関連した探究的な学習活動への支援

鳥取県 鳥取県立米子東高等学校

基本データ

所在地	米子市勝田町一番地
児童生徒数	1,020人
教職員数	115人
蔵書数	約41,000冊
年間貸出冊数	14,592冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】情報活用能力の育成、情報機器の活用

【活動のねらい】

- 情報を収集・整理・表現するためのスキルの定着を支えること。

取組・活動の概要

(1) 環境整備

- 平成29年度より本校がSSH指定校となったのにあわせ、蔵書構成の見直しを行い、蔵書の少ない分野の充実を図ってきた。
- また、足りない資料は鳥取県立図書館と県内高等学校からの借受で補充し、授業への積極的な資料提供を行っている。
平成30年度借受：鳥取県立図書館1,776冊
他校30冊
- この膨大な資料の物流は、鳥取県立図書館による県内市町村図書館・高等学校への資料配送システムによって支えられている。
- 館内整備としては、授業に対応するためにホワイトボードとプロジェクターを設置した。
- ノートパソコン10台を館内に常設、デジタルデータと本や雑誌が併せて使える。
- 探究的な学習活動を効率的に行えるよう、情報記録用の情報カードや、分類整理用の模造紙・ペン・ミニホワイトボードなどの文具類、教科書や探究スキルに関する資料をまとめて提供するコーナーも作っている。



授業用文具等のコーナー

(2) 授業支援

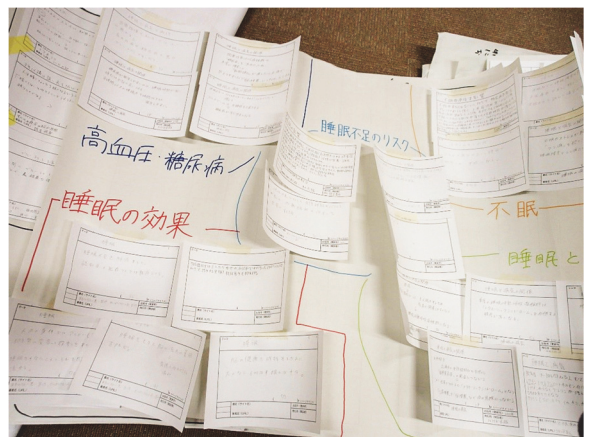
【探究的な学習活動に関わる情報活用スキルの育成支援～「情報を収集する・分類する・まとめる・論証する」スキルの育成～】

【対象学年】1年次生～2年次生

【対象教科】1年次生「保健体育」「現代社会」、
2年次生「課題探究応用文系」「保健体育」

【時期】1年次生9～11月、2年次生4～1月

- 1年次生対象の学校独自科目「課題探究基礎」では、言語技術や論文読解など課題研究に必要な基礎的スキルや知識を学び、調査・実験の活動は協力科目（保健体育・現代社会・家庭基礎・数学・物理・生物・化学）で行う。「保健体育」と「現代社会」では、図書館と連携し、情報活用スキルの育成を意識した学習を行っている。
- 図書館では、資料提供だけでなく、記録用の情報カードや参考文献記入用紙の準備、情報カードの記録方法や、情報の分類方法などについてのガイダンスも行っている。



「1年次生保健体育」情報カードの分類

- 情報カードをツールとして使用する点は共通だが、「保健体育」が「情報をわかりやすくまとめる」ことが目的であるのに対し、「現代社会」では、「問いに対する結論を導く」ことが目的となっている。図書館では、それぞれの目的にあわせた情報の分類や成果物の見本なども用意し、提供している。
- 2年次生は、学校独自科目「課題探究応用」において4人グループでテーマを設定し1年かけて探究学習を行う。「保健体育」では全員が1人でテーマ設定からレポート作成・発表まで取り組む。
- 図書館は文系「課題探究応用」の学習教室の1つに指定されており、情報を記録する2年次生用の情報カードや参考文献記入用紙の作成と提供、論文検索についてガイダンスなどを行った。また指導教員でもある司書教諭と相談しながら、アンケートの作り方や、情報をまとめるための思考ツールなども提供している。



探究応用文系学習風景

- 「保健体育」のレポートでは、テーマである「問い」に対する「結論」とその「根拠」を明らかにすることが求められている。図書館では、これまで学習してきた情報活用のスキルを再確認するとともに、「テーマの細分化」についてのガイダンスを実施した。「問い」を明らかにするためのより小さな問いを考えることで、リサーチの道筋を見つけるとともに、「問い」そのものを見直すことも目的としている。
- 問いを立てることは、探究的な学習において要となる部分であるので、図書館として何をどのように提供すべきか今後も研究を続けていきたいと考えている。

取組・活動の工夫や特徴

- 学年の全クラスで同じ学習活動を行うには、教科との連携や担当教員との意思疎通が重要。
- これまでに提供したワークシートやガイダンス用パワーポイントなどの資料、生徒の成果物を保存し、各教科との打ち合わせの際それを提示しながら話し合いを行っている。
- 打ち合わせについても、時期を見計らって実施の時期を事前に問い合わせし、できるだけ準備の時間を確保できるよう努めている。
- 打ち合わせでは、授業の狙いや時数、授業の流れの中で押さえるべき点などを確認し、提供するワークシートや資料の種類（本・雑誌・新聞・インターネットなど）と内容、授業内での図書館の役割と必要なガイダンス等を決めている。
- 授業後には、できるだけ授業者から聞き取りをし、次年度へ活かすようにしている。

取組・活動の成果や今後の展望

- SSH 指定校となって3年目ということで、明らかな成果はまだ十分把握できていない。ただ、情報カードの記録や分類を自主的に行ったり、ホワイトボードなどを活用し、情報を整理しながら話し合っている姿が、2年次では日常的に見受けられるようになってきた。複数の教科での探究的な学習の体験が、こうした様子につながっていることがうかがえる。
- 課題としては、情報活用にかかわるスキルの学習が、それぞれの教科でどのように行われているのか、校内で十分共有されていないことである。
- 学校図書館がハブとなり、情報の共有に努めていきたい。
- また、将来的には探究的な学習について必要なスキルの全体像をもとに、複数の教科が連携しながら、情報活用スキルについて学ぶ機会を学習活動の中に意識的に取り入れることが、今後生徒の力を育てる上で必要である。